

4 あま 雨 こ 乞 い 山 やま

伝承地：飯山町

話者：15



(雨乞い山)

飯山の農村飯山では、日照りが続くと村中総出で村内にある雨乞いの山愛宕山に登り、山頂にあるほこらにお酒を供え、その後ほこらの回りを「ジィッチとオツプレショ」と何回も唱えながら回って祈ると家に帰り着く頃には雨が必ず降ってきたと伝えられている。

むかしは、日照りが続くと、大切な稲を枯らすことになりかねないので農民はたいへん恐れていた。

したがって、村には必ずといってよいほど雨乞いの場所があった。なかでも、村内に河川がなく天水に頼って稲作を行っている山合いの村では、日照りが少し長く続くと水不足に悩むのであった。

このような山間の農村では、平地の村以上に雨乞いは重要なものとなっていた。

宇都宮北部の山合



5 あま 天 し 子 づか 塚

伝承地：東戸祭一丁目16 (祥雲寺)

参考書籍：1



(天子塚)

干天が続いた時は、境内にある竜神様の前でお祭りをして、その後、塚の上を鍬で2～3回掘ると必ず雨が降るといわれている。

祥雲寺境内に天子塚と呼ばれている全長約40mの前方後円墳がある。

この古墳は、二荒の神(二荒山神社)を父とし雷の神(雷電神社)を母として生まれたものと言われ、天子塚という名もここからついたものらしい。さらに、不思議なことには、二荒山神社、雷電神社が、この天子塚からみて巽の方向へ一直線に並んでいるという。

また、天子塚は別名を雨子塚とも書き、

